

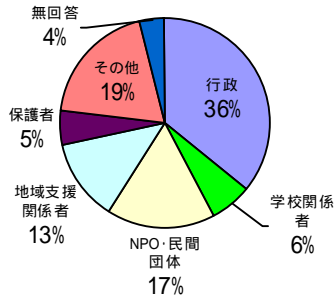
第4回全国家庭教育支援研究協議会
(ファザーリング全国フォーラム in しが分科会1)

共に育み、共に育つ。そして、学びを支え合う。
～学校・家庭・地域において我々は何ができるか～

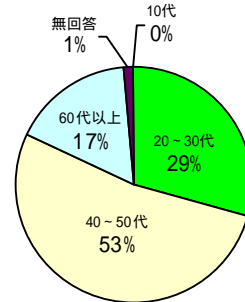
アンケート結果

日時:平成24年2月17日 場所:大津プリンスホテル

1 所属

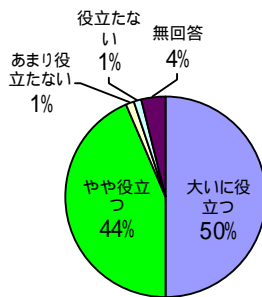


2 年代

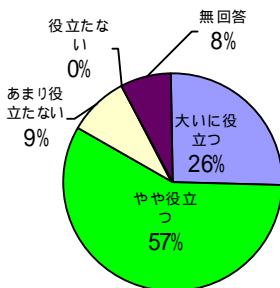


3 本研究協議会(分科会1)の内容について

(1) 基調講演の内容は、家庭や地域、学校等での活動や課題解決に役立つと思いましたが、



(2) パネルディスカッションの内容は、家庭や地域、学校等での活動や課題解決に役立つと思いましたが、



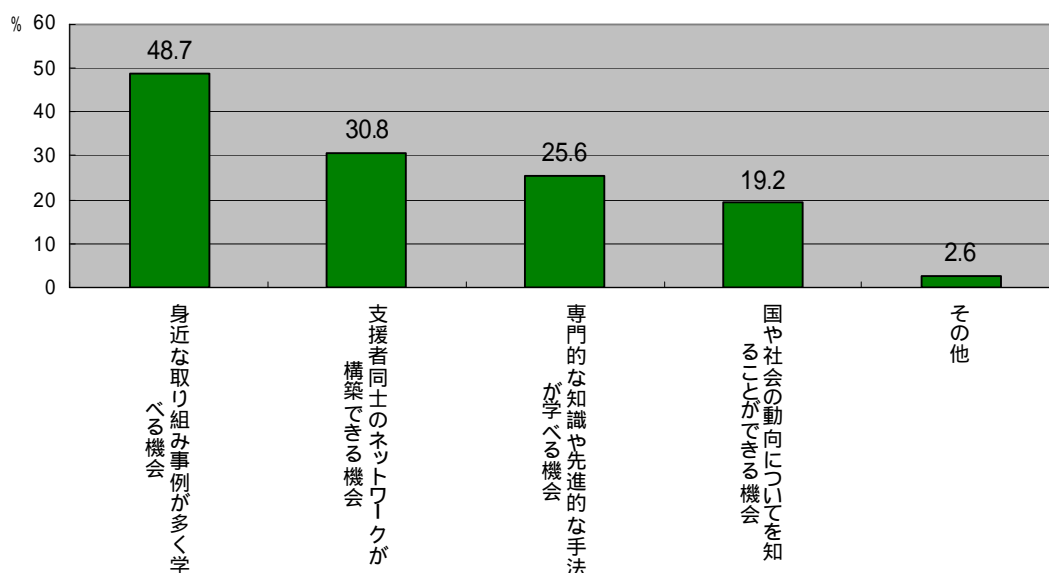
(3) 本研究協議会(分科会1)で感じたことをご自由にお書きください。

- 地域と学校とのつながりや協働していくことの大切さを学ぶことができました。地域力が大切であると言われる今だからこそ、ともに育み育つことを行政と地域の垣根を越えて実践していきたいと思った。
- 行政が取り組まなければならない核心部分本音の部分が聞けた気がします。表面だったきれい事の話ではなく、人間としての「生き物」として、大切なことが何なのかを考えさせられました。
- 地域(父親)が子育てに関わっていく具体的な事例をたくさん伺えてよかったです。
- 共に育み、共に育つ、そして学びを支え合う。学校、家庭、地域において何にでも学びあうという意識が大切だと感じました。
- 異業種、異分野、異年齢の人たちが集まる場というのが、大切だと感じました。その中で父親の役割はどうあるべきかを考える機会になりました。
- 様々な取り組みがあることが分かってよかった。もっと多くの自治体で家庭 - 地域間のつながりを深める活動をすべきだと思う。

- "子育て"と言えば"母親"に直接するイメージが、現在出回っていると思います。父親の力の大切さをもっともっと広めて、父親の子育ても母親と並ぶくらいになれば良いと思いました。
- 父性が子どもの成長や自尊意識の形成のために重要であり、それゆえにファザージング、パパ活動が意味を持つと感じました。サークルでのパパネットワークを生かして、ナナメのかかわりが子どもにできるようにすること。地域での子育てが重要であることを再確認いたしました。ありがとうございました。
- 学校への参画の取っ掛かりは様々ある。その仕掛けが参加のモチベーションにつながっていることを学んだ。
- 学校と地域が意外と疎遠になっているのは感じていたので、東山田中学校の事例は参考になりそうです。学校側の受け入れもポイントとなるとは思われるため、教諭、PTAとの連携が課題になりそう。
- 参加者が若い人が多く、父親力等家庭、地域に関する事が興味があるのだなと思いました。時代が変わり、子ども達がこれから目指すものを親地域を通して、又+(プラス)体験を通じて自立への道を行こうと早い年齢で感じていってほしい。地域力を高めることは必要。
- 父親が育児を楽しむと同時に次の世代を育むことを両立するために必要なことは何なのか深く考える機会になった。
- 父親をテーマにした協議会で非常に勉強になりました。父親 地域のおじさんとして…どのように地域の子どもたちを見守り育んでいくのかについてのヒントをたくさんいただきました。

4 今後の希望について

(1) 今後開催するとしたら、どのような研究会を希望しますか。



(2) どのようなテーマがよいと思いますか。ご自由にお書きください。

- 意見・考え方が違う方々とのパネルディスカッションが良い。いろいろな立場の方々が、1つのテーマをいろいろな角度から討論できると良い。
- 先進的な事例の紹介だけでなく、失敗した事例も紹介してもらうことでより取り組みが具体的に伝わるのではないかと。
- 子育てを楽しくするためにパートナー(夫婦)を見つめて新しい発見をしてみよう！
- 地域間の交流や協力を進めるきっかけや原動力、活動方法について
- 家庭や地域のマネジメントや組織運営のリーダーシップ論。ワークショップ形式も良いと思う。
- 地域参加をしない人たちに公民館や学校へ出てきてもらう、参加をうながすにはどういうやり方があるか
- 子どもを軸とした行政同士(ex.教育委員会と福祉、部局等)との連携の具体例、実践等のテーマ。家庭教育・子育て支援を手厚く受けてきた子ども達が大人になり、どのような力がついたのか…今、そういう活動にかかわっているのか…そのようなパネルディスカッションを聞いてみたいです。